

『進行性核上性麻痺患者の胃ろう造設の状況と 術後予後に関する検討』 お知らせ

1. 実施目的について

進行性核上性麻痺が進行すると、食事や薬の飲み込みが悪くなり、栄養状態が悪化していくことで余計に症状が進行していく場合があります。その時に、胃ろうを作ってそこから栄養をとるかどうか、ということは非常に判断に迷うことではありますが、胃ろうを作った後の生活がある程度想像できた方が判断材料になることも多いと考えます。

今回、当院にて診療をうけておられる進行性核上性麻痺患者さんで胃ろうを造設された方で、胃ろうを作ったときの状況、その後の状況について調べてまとめることを目的としています。

2. 実施内容について

方法は、2008年4月以降に、当院にて診療うけながら胃ろうを造設された方を対象とします。カルテから、臨床情報(性別、発症年齢、胃ろう造設時年齢、発症～胃ろう造設の期間、胃ろう造設前後の検査データや症状、胃ろう造設後～死亡または気管切開の期間等)を抽出し、これらの数値の平均、標準偏差、最小値、最大値、各数値の相関の有無、胃ろう造設後の生存曲線等を調べます。

カルテを実際に調べる作業を行う期間は、これより2027年3月末までです。

3. 研究代表者

石田 千穂(医王病院 脳神経内科 院長)

4. 調査対象期間

対象患者さまの当院での診療期間(最大2027年3月まで)を調査対象期間とします。

5. 個人情報およびプライバシーの保護について

それぞれの患者さまの個人情報は、個人が特定できないデータに変換された上で、データファイルが作成、保存、分析されます。この研究により、個人情報やプライバシーの漏洩や公開は生じません。

この研究の成果は、個人が特定できないデータとして、学術的な場でのみ公表します。

6. 本研究に関するお問い合わせ

上記のように、個人情報やプライバシーを保護した状態であっても、調査対象となることを拒否される場合、また、この研究についてご質問がある場合には、下記までお問い合わせください。

医王病院 脳神経内科 石田千穂

国立病院機構 医王病院病院長 石田 千穂